

7つの

問題

お客様のQMSの 改善すべき問題

1

データではなく 文書を 重視している

ほぼすべてのソフトウェアにある程度のクラウド機能が搭載されていますが、デジタル面で成熟しているソリューションとは、ただオンラインで文書を確認できるソリューションではなく、堅牢なSaaSプラットフォーム経由で品質データをリアルタイムで閲覧、分析できるソリューションです。



2

時代遅れの 品質プロセス

品質およびコンプライアンス管理の良し悪しは、品質ワークフローについて十分な知識があるかどうかによって左右されます。お客様のQMSで、事前に検証済みの実証されたプロセス、すなわち、業界のベストプラクティスに従って開発されたプロセスが提供されていない限り、効率と効果を向上するために利用できるQMSのポテンシャルを最大限に活用できているとは言えません。



3

アクセスが 限られている

使いやすいシステムを使用している場合、品質事象はほとんど発生しません。企業に求められるのは、「目にしたら報告する」文化を支援する機能とユーザーが時間や場所を問わず品質事象を閲覧、記録、管理できる機能です。どこからでも24時間いつでもアクセスできる機能を提供していないQMSは、企業に必要なモビリティを提供できません。



4

パフォーマンス の問題

変化が必然であるならば、M&Aを推進力として拡張する変化や、品質データを増やす変化を目指しましょう。ユーザーやデータ量に合わせて速やかに拡張できないQMSは、企業にとって最悪のシナリオであるパフォーマンスの低下につながる可能性があります。



5

サプライチェーン のリアルタイムの 可視化の欠落

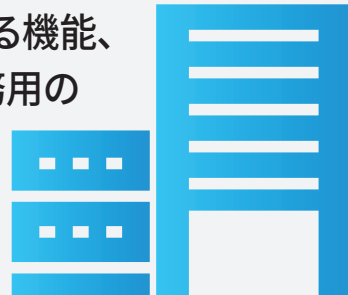
広範にわたるサプライヤーネットワーク全体で品質基準を維持するため、エンドツーエンドのライフサイクルの可視化には、リアルタイムの連携が必要となります。ただし、自社の品質部門とサプライヤーの品質部門の両方が同じプラットフォームに接続していなければ、リアルタイムの連携は実現できません。



6

柔軟性に 欠ける独自の テクノロジー

独自のテクノロジーに基づいて構築されホストされたQMSプラットフォームにより、速やかな変更を管理する機能や、ITリソースのバランスを維持する機能、新しいテクノロジーを活用する機能や、業務用の他のインフラストラクチャに組み込む機能が制限される可能性があります。



7

使いにくい ユーザー インターフェース

品質システムは完全に導入されてはじめて機能します。馴染みのないインターフェースや操作が難しいインターフェースが使われている場合、システムを直感的に操作できない場合、もしくは使いこなせるようになるまで時間と労力が必要な場合、システムを利用するユーザーの意欲が削がれ、品質プロセスの遵守率の低下につながる可能性があります。



QMSを有効活用する方法についてはこちらの
ホワイトペーパーをご一読ください

Honeywell

Sparta
Systems

www.spartasystems.jp